

第1回チーム医療推進会議における主な御意見

- 医療現場の方々が働きやすくなることが最も大切。WGでは、そのためのサポートを検討していただきたい。具体的には、ガイドラインの策定、法の明確化、チーム医療の具体的事例の紹介のようなものがあるのではないか。
- チーム医療の1つの手段として「包括的指示」は非常に大事。あらゆるスタッフが医師から指示を受けている。チーム医療を考えたとき、包括的指示をどうするのか、看護業務だけでなく、もっと幅広く捉えるべき。
- 認定を行う場合には、病棟薬剤師と薬局の薬剤師との連携、病棟ナースと訪問ナースとの連携等、どうすれば地域と病院とのチームがシームレスに機能するかという視点が重要。
- チーム医療の質を担保するのはなかなか難しい。チーム医療だけを取り出して評価できないところがあるので、第三者機関で総合的に評価していただくことになると思う。
- チーム医療を推進する医療機関を認定するとなれば、認定基準を満たさない医療機関はチーム医療をやっていない、というレッテルを貼られることになるだけ。医療現場には何ら反映されず、国民にとって良い医療ができない。
- チーム医療検討会報告書では、チーム医療を推進するための方策として「医療機関の認定」ということが強調されているが、それが唯一の方策かといえそうではないかもしれない。ただ、「認定ありき」でないとしても、チーム医療のクオリティをどう担保していくのかといった議論を行っておく必要があるのではないか。
- 今、地域の医療現場で求められていることは、各種国家資格の業務範囲を明確にして、法的に違反でない範囲を明確化すること。
- チーム医療を推進するための条件として、人手の問題、各専門職の専門性の向上の問題、評価の問題が挙げられるが、これらについてWGで議論すべき。

- 病院の中では、MSWや診療情報管理士等も重要な役割を担っているので、国家資格にとらわれず、実際の医療現場は誰が回しているのかということを含頭において検討いただきたい。
- 看護師だけではなく、薬剤師、助産師、リハビリ関係職種等についても、業務の見直しの議論がなされるべき。
- それぞれの専門職の能力や技能、知識というもののレベルをどういうスタンダードにすればチームによる業務が可能なのか、業務の拡大とかみ合った形にすれば議論がうまく進むのではないか。